

## 日本特殊陶業(株)宮之城工場 第2セラミック棟起工式

2月5日、日本特殊陶業(株)鹿児島宮之城工場第2セラミック棟増設に伴う起工式が行われました。

今回、宮之城工場内に増設される第2セラミック棟は、鉄骨造地上3階、延床面積17,611.56㎡で、今年10月末に完成後、来年4月の操業開始に向けて計画が進められています。

この絶縁体(セラミック)工場の増設により、スパークプラグの一貫体制が確立されることから、本工場は世界一のプラグ工場としてさらなる飛躍が期待されます。

また、本町経済の発展と関連産業の振興が図られることはもとより、地域の雇用機会の増大による定住促進や町民所得の向上など地域の活性化に大きく寄与するものと期待されます。



初之儀を行う日本特殊陶業(株)の加藤倫朗代表取締役社長

## 株式会社日特製作所 倉内工業団地に工場新設



市橋保彦鹿児島県副知事(中央)立ち合いのもと、立地協定に調印し握手する株式会社日特製作所の木村保雄代表取締役社長(左)と井上章三町長(右)

2月9日、スパークプラグのトップメーカーである日本特殊陶業株式会社の子会社「株式会社日特製作所」(木村保雄代表取締役社長)が、倉内工業団地への工場新設に伴い、市橋保彦鹿児島県副知事立ち会いのもと立地協定を結びました。

株式会社日特製作所は、スパークプラグ用中心電極や端子・雄ネジの製造をしており、その生産能力は、本社工場及び大口工場(共に愛知県)合わせ、中心電極関係は、月産3,300万个、端子・雄ネジは、月産2,100万个と国内最大の部品供給工場です。

今回の本町への進出は、日本特殊陶業株式会社プラグ事業部の長期計画案に対応すべく、また、名古屋地区では従業員採用が困難であること、オール日特としての東海沖大地震に対する生

産工場のリスク分散や日本特殊陶業株式会社宮之城工場GS(ガラスシール)工程の増設による物流費増大などの理由により、日本特殊陶業株式会社宮之城工場に近い本町の倉内工業団地へ進出し、平成20年4月生産立ち上げを目標に工場建設を決定されたものです。今回、本町への進出により、地域における雇用の創出、活性化はもとより、地域経済の浮揚発展に大きく貢献することが期待されます。

## 宮之城人形

### 宮之城初市にお目見え



宮之城初市に復活した宮之城人形

2月7日、宮之城屋地の盈進小学校前町道で行われた宮之城初市に宮之城人形が68年ぶりにお目見えしました。初市に宮之城人形を復活させたのは、宮之城人形愛好家15人で構成する宮之城人形復興会。初市販売に向けて、昨年10月頃から製作に取り組んでいました。

宮之城人形は、粘土を型に入れて素焼きをし、色づけした土人形。市では「天神さん」や「鯛持ち」、「立ち娘」など、5種類100体の宮之城人形が展示即売され、あまりの人気に2時間ほどで完売しました。

宮之城人形は、明治時代、宮之城屋地の松永仲次郎が東郷人形の制作者に弟子入りし、宮之城に帰郷した後に作り始めた人形で、古くより、薩摩では初節句を迎える子ども達に、その健やかな成長を願って土人形を贈る習慣があり、それらの人形は初市で買われていました。初市を人形市と呼ぶのもそのためです。昭和10年代はじめて宮之城人形が販売されていましたが、昭和14年、松永仲次郎が亡くなったために製作が途絶えていました。

宮之城人形復興会では、今後も初市に限って販売を行い、また、先人達の想いを伝える活動をと、一般の方にも広く人形作り体験の場を提供していきたいとのこと。